大雪山・山守隊

2017年度活動報告書

TEMI

KANAZUTI

SYOIKO & KAGO

KUWA

KANATEKO

大雪山・山守隊　2017　活動報告

活動内容

6月19日　シンポジウム「大雪山に恩返し」　主催：山岳レクリエーション管理研究会
札幌市エルプラザ　山守隊

7月29日　「①たまには山へ恩返しin黒岳」登山道整備イベント
雲の平　参加者58名　主催：山楽舎BEAR他　・登山道復元、植物保護、法面保護
協力：山守隊、環境省、林野庁、りんゆう観光、上川地区登山道協議会、秀岳荘

8月19日　「②たまには山へ恩返しin愛山渓」登山道整備イベント
愛山渓　参加者35名　主催：環境省　・登山道復元
協力：山守隊、林野庁

9月2日　「③たまには山へ恩返しin旭岳」登山道整備イベント
裾合平　参加者42名　主催：山楽舎BEAR他　・登山道復元、木道・導流工、法面保護
協力：山守隊、環境省、旭岳ロープウェイ

15日　「④トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」登山道整備イベント
南沼キャンプ場　参加者25名　主催：十勝総合振興局　・植生復元
協力：山守隊、環境省、新得山岳会

16日　「⑤たまには山へ恩返しin原始が原」登山道整備イベント
富良野岳原始が原　参加者25名　主催：富良野市　・植生復元
協力：山守隊、環境省、富良野山岳会

9月29日～10月22日　写真展「山守人」
モンベル大雪ひがしかわ店２F　主催：山守隊　・山守隊活動報告写真展

11月8日　山守隊報告会　主催：山岳レクリエーション管理研究会
札幌市エルプラザ　山守隊

その他　⑥フィールドレポート　ルート状況確認・登山道整備
・裾合平、愛山渓、原始が原、石狩岳など
・高原温泉ヒグマ情報センター（柳澤氏FB紹介）

報道　新聞掲載3回（黒岳イベント、トムラウシ）、TV紹介（ほっとニュース北海道）

これから　3月　法人設立

整備活動コンセプト

正しい維持管理をするための心構えです。

・近自然工法の考え方に基づいて施工する。
・過剰整備や人間の都合による施工を避け、自然の成り立ちや景観保護を考えた施工を行なう。
・参加者が自然保護を理解したうえでの施工をする（やるべき内容の共有）。
・施工後の変化をしっかりと判断し、失敗を理解し、次に繋げる。
・自然に対する謙虚な気持ちを持ち、自己満足を嫌い、正しい維持管理になるよう努力する。

大雪山・山守隊

2017年度 「たまには山へ恩返し」イベント　大雪山各地で4回開催

今年行なった登山道整備イベント「たまには山へ恩返し」は、主催・協力を合わせると年4回。
たくさんの方々が、呼びかけに答えて集まってくれました。
荷上げから作業まで、それぞれが体力に合わせ、出来ることを。
大変なだけでなく、「楽しかった」「また参加したい」という声をいただけたのは、山に恩返しをしたいという想いで集まってくださった皆さんとの作業だったからだと思います。
2017年のたまには山へ恩返しにご協力頂いた全ての方々、本当にありがとうございました。

大切なこと・・自然の変化を観察すること

昨年、法面保護のためヤシネットを使った施工を行ないました（たまには山へ恩返しin裾合平、写真中央）。
一年経って観察すると、ヤシネットに溜まった土壌からたくさんのチングルマ発芽を確認（写真左）。
べた張りのネットからも発芽を確認しました（写真右）。
今後の変化も観察し、施工方法もその変化に合わせていきます。

専門家による技術指導

山守隊のイベントでは常に登山道整備の専門家が下見や段取りを行ない、当日は一般の方々へ技術指導をしています。
登山道を復元するということは「自然を変化させる」ということ。場当たり的な対処ではなく、長い目で見て自然が復元していくためには何が必要かをしっかりと考えなければなりません。

どの場所も侵食の観察から、作業は始まります。
どんな変化があったか、どんな風に施工するか。
現場を見て皆で相談しながら、考えながら。
昨年施工した場所から新たな芽が出ていて、
とても嬉しくなることもあります。
人間が「こうしたい」という判断よりも
自然が「成っていく」ように判断していくこと。
自然に合わせることが一番必要だと感じます。

崩れた法面の端にはランナーと
呼ばれる植物の伸びた枝があります。
よく見ると土に埋もれた場所からは
根が伸びていました。
復元はここからも始まります。

大雪山・山守隊

活動内容　①

たまには山へ恩返し　in　黒岳（雲の平）7月29日

黒岳石室に近い雲の平。
多くの高山植物の咲く場所にある登山道。
一昨年の豪雨により大きく崩れてしまいました。
今までにないほど道は削られ、削られた土砂が高山植物帯を埋めていました。
しかし、少し掘り出してみると、土砂の中で植物が青々と生きていました。
崩れを止め、植物を助けるために58名の方々が参加し、汗を流してくれました。

この崩れの原因は豪雨によることが大きいですが、その前年に施工された土留めや段差処理の施工物がこの付近の地質に合わず、侵食を拡大させた可能性がありました。
侵食原因と施工の方法を登山者に理解してもらう勉強会から始まりました。

20代から70代まで、男女や体力の有無にかかわらず、
その人の出来る分だけ、できることをお願いしました。

ヤシネットやヤシ土嚢を使って
侵食に合わせた施工を行ないます。

植物を傷つけないように、小さなクワで
丁寧に堆積した土を取り除きます。

取り除いた土は土嚢袋や背負子に入れ、崩れがひどい侵食場所まで運搬。

「たまには山へ恩返し」登山道整備イベント

主催：山楽舎BEAR、上川総合振興局　協力：山守隊　技術指導：合同会社北海道山岳整備

崩れが進む切り立った法面に、流れ出た土砂を戻しこれ以上の侵食を止める施工を行ないました。
また、崩れてバラけていた植物群は土嚢の上に積み上げ、根付くことによる法面保護になるよう再設置しました。

協力、協賛　により、参加者の方々に下記の提供を行なうことが出来ました。ありがとうございました。
黒岳ロープウェイリフト無料（上川地区登山道維持管理協議会・りんゆう観光）、缶バッチ（林野庁）
秀岳荘1000円分商品券（秀岳荘）、トマトジュース（おかファーム）

まだまだ埋まっている植物はあります。
少しでも元に戻ることを願っています。

施工前に勉強会で完成イメージを共有し、
細かいところは講師に聞きながら施工しました。

左右の法面延べ60m以上を保護することが出来ました。
今後の経過観察が必須です。

大雪山・山守隊

活動内容 ②　　たまには山へ恩返し in 愛山渓 8月19日

愛山渓の三十三曲に大規模な木柵階段があります。
施工されてから6年ほど経ち、段差が高くなり流水や
とくに登山者の踏圧により木柵脇が削られることも多
くなっていました。
侵食原因が踏圧の場合の施工は、登山者が歩きやすい
施工物になることが求められます。
主催者の環境省職員と何度も下見をし、考えながら、
「段差を解消し、登山者を誘導する道にすること」
を目標とした整備講習会となりました。

山岳関係者は元気な人が多く、高い段差も気にせず歩くことが出来ます。
ですが、一般の方々の中には、ちょっとの段差がつらくて脇の法面を削りながら歩いてしまう人もいます。
登山者の気持ちがわからなければ、だれもが使える施工物にはなりません。
元気な人は石を担いで足弱の人の気持ちを理解するところから始めてみました。

まずは荷上げ、最大30kgほど
きつい坂を頑張る若者

良い施工をするためにと、
この木柵階段を施工した業者も参加、勉強してくれました

細かい場所は相談しながら、
登山者の気持ちを考えてます

排水のための導流工も設置
納得の施工だったようです

ひたすら資材運搬の人
頭が下がります

石の詰め方、木の組み方
現場に合わせた臨機応変が求められます

「たまには山へ恩返し」登山道整備イベント

主催：環境省上川自然保護官事務所　協力：山守隊　技術指導：合同会社北海道山岳整備

段差が高くなっていた木柵階段に、補助階段を追加。
並行、等間隔の施工ではなく、歩く人の感覚を最優先し「この場所に段差が欲しい！」という場所にさりげない施工を。
自然に対する人間の施工は最低限にしなければなりません。

施工後の点検をすると、バッチリ機能している導流工

登山者を見ると・・・誘導されています
やっぱりそこを歩きますよね

イベントには34名の方々が参加してくれました。
施工後は愛山渓ヒュッテで座学を開催。
施工の理由を再確認、また、応用変化の事例も学びました。
今後の変化もみんなで共有していきます。

その後は懇親会を開催。
山仲間を増やし、活動を広げ、理解してもらうこと。
環境省と協力し、山の管理方法を模索しました。

大雪山・山守隊

活動内容 ③　　たまには山へ恩返し in 旭岳（裾合平） 9月2日

毎年、山樂舎BEARと上川総合振興局の共催で行われている登山道整備イベントです。

今年は37名の参加者。施工班4班と荷上げ班1班に分担して作業しました。

各班の班長は現場を何度も下見し、どういう施工にしていくかを事前に考えていました。

当日は完成イメージ図を見てもらい、作業内容を解説してから開始。

何度も来てくれている参加者は、初めての参加者に教えながら。

だんだんと「チーム大雪山」になりつつあります。

施工後は屋内で振り返りの講習会。施工の意味を深めて次を考えます。

そして最後は懇親会。山仲間の交流も深まっています。

荷上げ隊は体力自慢が多い？
一番必要な頼もしい人たち

新素材「ジオウェブ」。最初は「目立つ！！」
施工後は「どこにあるの？」という感じに

木道作りは、もはや職人集団
切出、組立、運搬、設置、バッチリ

チームがしっかりしてくると自ずと作業分担ができます
荷上げ人へと繋ぐ石材集め作業人

土を集める人、スコップで入れる人、土嚢で受ける人
一人では大変ですが3人だと早い！

ヤシネットの位置は場所に合わせて考えながら
現場に合わせる感性も必要です

2017年度 「たまには山へ恩返し」登山道整備イベント

主催：山楽舎BEAR、上川総合振興局　技術指導：合同会社北海道山岳整備
協力：山守隊、環境省、わかさリゾート

「現場に合わせた最低限の施工」を常に考えつつ、できるだけ景観を変えないよう努力しています。
「作り変える」よりも「自然に合わせる」ことが重要です。

導流工（排水工）

登山道へと流れ込んでいた流水を、もともとの流れへと戻す施工です。

土嚢袋に付近の土を詰めて流水を遮断、登山道への流れ込みは減少しました。

木道補修

崩れた木道を補修しました。

既存のしっかりしている木部に丸太をあてがい、中に周辺の礫を詰めると問題ない歩行路となりました。

路面保護

強化プラスチックの資材「ジオウェブ」を使っての施工。

木道補修よりも歩行路設置という意味合いが強い施工です。木道の代わりになる「歩いても崩れない資材」の試験施工を行なてみました。

木道設置

裾合平にある木道のない区間ではぬかるみが激しい個所があり、約15mほどの区間に木道の新設を行ないました。

法面保護

前年に試験施工した「のり巻き状の土留め」が予想以上の効果があり、引き続き同様の施工を行ないました。

凍結融解現象で崩れる土砂を受け止める効果、また溜まった土壌からの植生復元が期待できます。

大雪山・山守隊

活動内容 ④　　トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 9月15日

トムラウシ南沼キャンプ場にある携帯トイレブース。
その脇から伸びる道は登山道ではありません。
隠れて用便をするために植物帯を踏んでできた、
通称「トイレ道」です。
この先には使用済みティッシュの花が咲いています。
ここまで裸地化が進んでしまうと、流水や霜柱による
侵食で、踏圧がなくても崩れが進行してしまう危険が
ありました。
地元関係者とともに裸地化防止の植生復元作業です。

トムラウシ登山の難所「カムイ天上～カムイサンケナイ沢」泥だらけの道。この道も問題個所です。
泥を避け法面を歩くと土砂を削ってしまうんです。泥まみれの靴は植物を守るため。泥まみれこそ、かっこイイ！！

ヤシネットや道具は分担して荷上げ
この日は最高の紅葉も見られました。

トムラウシの南沼は山頂直下にあり、普通に歩くと片道5～６時間はかかります。ネットや道具を背負い、ここまで来てくれただけでもありがたいです。
早朝に出発し、作業に2時間。雨の中帰路につく強烈な日帰り作業でした。参加してくれた人の心意気に感謝！！

南沼キャンプ場　トイレ道の植生復元作業

主催：十勝総合振興局

踏圧からの保護をする場所、流れてくる土を留める場所、しっかりと観察しその場に合わせた微妙な変化をつけて行きます。
道の傾斜、土の残り具合、既存植物の状態、見るべき事柄はたくさんあります。
登山道整備はまずは観察から始まります。

よくよく登山道を観察すると踏圧のない場所には自然の復元が見られました。であるならば、今回施工の場所もきっと復元するはずです。経過観察も重要です。

トイレの中も砂利を敷いて見栄えよく。汚れたら交換できます。

そもそもトイレ道がついてしまった原因は
「トイレがないこと」でもあります。
トムラウシという自然の再奥地に立派なトイレの必要有無は
考えどころであり、再奥地を目指す登山者の
マナーとして携帯トイレの活用は必要だと思います。
今後は近々の課題として、トイレブースの増設も視野に入れ
取り組んでいきたいと思っています。

このプロジェクトの主催は十勝総合振興局。
協力者として
・大雪山・山守隊
・環境省上士幌自然保護官事務所
・新得山岳会
・北海道山岳整備（技術指導）
・一般登山者
総勢20名ほどの共同作業となりました。
今後も続きます。
皆様のご協力をよろしくお願いします。

大雪山・山守隊

活動内容 ⑤　　たまには山へ恩返し in 原始が原 9月16日

ニングル小屋から富良野岳へと向かう途中「原始が原」と呼ばれる湿原があります。登山者は少なく、歩行路もほとんどわからないほど「原始」的な場所です。歩行路も見えず、ヒグマの気配芬々、人もいない。ですが圧倒的な「自由」を感じます。これほどまでに自由度があるルートは大雪山にはもちろん、おそらく日本中でもほとんどありません。「原始が原」その名の通りの場所であり、大雪山の宝です。

2016年　富良野市民登山会で最初の施工

登山者の少ない原始が原ですが、踏圧による裸地化が目立つ場所も多々あります。
これ以上の拡大を防ぐため、2016年8月11日山の日に富良野市民登山会の一部として裸地化防止の保護活動が始まりました。

一冬経ち、経過観察を行なうと思った以上のイネ科植物の発芽が確認できました。
ネットの隙間から既存の植物も生え、現状に悪影響がないこともわかりました。一時の変化で結論を出すことは難しいことですが
経過観察を続けながら植生復元を続けていこうと関係者間で話し合い、今年も活動を続けることが出来ました。

「たまには山へ恩返し」登山道整備イベント

主催：富良野市、富良野山岳会　協力：山守隊　技術指導：合同会社北海道山岳整備

いつものごとく、荷上げからスタート。ヤシネットや番線、各種道具を運びます。
川を越え、倒木をくぐり、沼地にはまりながら、約2時間かけて現場に向かいました。

現場ではすぐには施工せず、まずは昨年施工個所の観察から始めました。
どこに、どのように植物が復元したかを確認し、やるべきことを共有し、再確認します。

26名の参加者は4班に分かれて作業。各般の班長を山守隊員が担当しました。
とはいえ、復元状況を見た参加者からは「こういう風にやったらどうか？」と提案もあり、意見交換しながらの作業。これも楽しいことです。
作業することによる踏圧の影響も見えたり、今後の課題や改善点も見つけることが出来ました。

今回の使ったヤシネットは4ロール(1ロール15m）。
昨年施工し、復元の効果が高かったネット土留めや
道幅に合わせて半分にしたり効率よく敷くことにより
約80mほどの区間を保護することが出来ました。

付近にはまだまだ裸地化歩行路があります。
今後もこの復元作業が続いていくことを望みます。

大雪山・山守隊　活動内容　⑥

フィールドレポート

愛山渓、裾合平、黒岳、原始が原、石狩岳、トムラウシなど
大雪山の様々な地域の登山道情報を発信。

歩行路に関することだけでなく、ヒグマ情報や紅葉情報、花情報など山守隊員が歩いた場所で気が付いたことや思ったことをFacebookにアップしました。

これは良かった！！　雪渓でのマーキング方法。

6月下旬、雪渓の広がる裾合平でルートマーキングを行ないました。ガスると方向を見失う大雪渓であり、目印が少ない区間ですが、2.1mの農業用ポールの先端にピンクテープを付け約40本（既存含めて50か所以上）設置しました。約30mに1か所の割合で目印が付きました。
雪面に簡単に刺さること、軽くて持ち運びが簡単なこと、安いこと、風に飛ばされないことなど、様々な利点があります。
回収済（再利用可）なので、来期は増やして設置予定です。

大雪山・山守隊　スケジュール

2017年　予定		4月	・屋内イベント企画
11月	・報告書作成	5月	
12月		6月	・会報誌夏号 ・登山道フィールドレポート開始
2018年　年間予定		7月	・たまには山へ恩返し
1月		8月	・たまには山へ恩返し ・勉強会
2月	・山守隊ホームページの開設	9月	・たまには山へ恩返し ・会報誌秋号
3月	・会報誌春号 ・法人化	10月	・「山守人」写真展

山を守り、楽しむ取り組み　山守隊イベントの内容

・たまには山へ恩返し（各所にて3～5回）
・たまには山へ恩返しミニ（小人数による小規模な登山道整備、平日など月に数回）
・近自然工法勉強会（行政機関向け、管理方法などの提案）
・侵食勉強ツアー（一般、行政関係者向け）
・写真展などの屋内イベント

歩いて調べる取り組み　フィールドワーク　調査、記録

・登山道情報の発信（侵食箇所、歩道状況、林道通行止め情報など）
・山岳管理方法、整備方法、登山道の経年変化など調査記録の公開、発信

つなげて伝える取り組み　関係機関、地域との連携

・各地域との連携、情報共有（知床、斜里、飯豊朝日連峰、戸隠、小笠原など）
・各山岳関係機関との情報共有（ヒグマ情報センター、ビジターセンター―など）

夢のある取り組み　今後の計画

・登山道の維持管理（管理者として）
・各施設の管理運営
・事務所兼交流館（宿泊、飲食可）の建設
・地域の雇用を生み出し、大雪山に定住してくれる人を増やす

大雪山・山守隊　ご案内

山守隊の運営につきまして、皆さまのご協力をお願いします。

今年度の山守隊活動費は任意団体ということもあり、発起人の持ち出しにより運営してきました。

来年度からはしっかりした組織、信用を得られる組織として活動の幅を広げていくため、活動員や事務員、とくに事務方の職員の雇用を検討しています。

これからの山守隊は、山岳業務の受注とともに、皆さまからのご協力（会員費）、寄付などにより運営していく予定です。
山に関わることが楽しくなるイベントや勉強会、また皆様のご協力が目に見える形での報告、リターンの提供を考えております。

始まったばかりの山守隊は、皆さまとともに作り上げ、育っていく所存です。
どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

＜山守隊、追加資材費用＞
イベントでは行政からの支出に加え山守隊からの提供も行っています。

【6月】　3,300円
・裾合平マーキング
　作業資材（ポール）

【7月】　31,000円
・たまには山へ恩返し
　資材（ヤシネット）
　道具（テミ、小クワ）

【9月】　79,000円
・たまには山へ恩返し
　資材（ジオウェブなど）

【10月】　33,800円
・山守隊写真展
　展示費用（用紙、他）

合計資材費　147,550円

＜来年度　大雪山・山守隊　運営基盤＞

- ○　山岳保全、調査業務の受注
- ○　勉強会ツアー開催などでのイベント料
- ○　賛助会員費
  - 一般　入会金　1,000円　年会費　5,000円を予定
  - 法人　（金額検討中）
- ○　寄付
- ○　ボランティア　運営の補助員
- ○　その他　物品販売・宣伝など

法人化に際し、会員を募集いたします。
皆様の入会をお待ちしております。

詳細は、山守隊Facebookやダイレクトメールにてご案内予定です。
ご連絡は山守隊アドレスまたはFB（QRコード）にお願いいたします。

大雪山山守隊アドレス　yamamoritai@gmail.com

組織概要	
名称	大雪山・山守隊（一般社団法人を検討）
設立予定	2018年3月
所在地	当麻町を予定
代表者	岡崎哲三
目的	大雪山に関わる「民」「官」「学」と連携し、登山道や山岳地域を正しく保全していくことを目的とする。
事業内容	・登山道や山小屋などの施設維持管理 ・登山道を活用した環境教育事業 ・整備や調査観察などの指導者育成 ・山岳管理イベントや会議、シンポジウムの企画運営 ・登山道に関する情報収集、情報発信 ・大学や研究機関との連携 ・行政、山岳関係者との連携　など
協力者	北海道大学の先生方 自然環境コンサルの方々